

(学年) 第2学年, (教科・科目) 商業・原価計算

一斉学習

(単元) 総合原価計算(先入先出法による月末仕掛品原価の計算)

(本時のねらい)

平均法と先入先出法の計算方法の考え方を理解させ、先入先出法による月末仕掛品原価の計算方法をマスターさせる。

(ICT活用方法)

平均法の計算方法と先入先出法の計算方法との考え方の違いを視覚に訴えるねらいで実施する。導入では前時の学習内容を復習するため、パワーポイントのスライド画面を用いて図解したものにアニメーション効果を加えてイメージさせる。その後、実際にワークシートを用いて計算させ、理解度を確認した。

(本時の展開)

時間 (分)	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 前時の学習内容について聞く。</li><li>・ 平均法の計算問題を解説して前時の復習をする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平均法による月末仕掛品原価の計算方法をスライドで確認させる。</li><li>・ 素材費と加工費をそれぞれ計算することを確認させる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ スライド画面を見せて、前時の内容を確認させ、計算方法を復習させる。</li></ul>	
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 先入先出法について説明を聞き、理解する。</li><li>・ 平均法と先入先出法の考え方の違いを理解する。</li><li>・ 先入先出法による条件に合った月末仕掛品原価のうち、素材費の計算問題を解く。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 当月製造費用を完成品数量と月末仕掛品換算数量に配分することを確認させる。</li><li>・ 金額や数量、計算に必要な情報を正確に記入できているか確認させる。</li><li>・ 素材がどの時点で投入されるかにより、計算方法に違いがあることを理解させる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ スライドに図形を用い、その部分の金額表示をして、その図解が分解されていく様子を頭の中でイメージさせる。</li><li>・ 平均法の配分方法と、先入先出法の配分方法を区別するために、数回アニメーション効果を用いてイメージさせる。</li><li>・ 素材費を計算した結果を原価計算表に記入するとともに注意すべきことをスライドで確認させながら、作成方法を習得させる。</li></ul>	

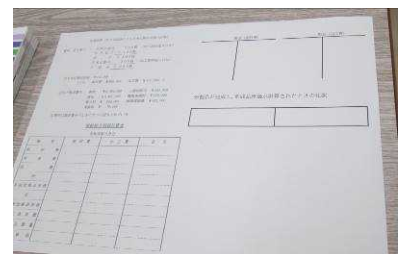
	<ul style="list-style-type: none"> <li>先入先出法による条件に合った月末仕掛品原価のうち、加工費の計算問題を解く。</li> <li>単純総合原価計算表を用いて、月末仕掛品原価と完成品原価を計算する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造着手の時点で投入される場合と進行に応じて投入される場合の2通りを計算して差異があることを確認させる。</li> <li>加工費については加工進捗度に応じて計算することを確認させながら、計算させる。</li> <li>問題の条件を確認して計算させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>加工費を計算した結果を原価計算表に記入するとともに注意すべきことをスライドで確認させながら、作成方法を習得させる。</li> </ul>	
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容について、確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均法と先入先出法の考え方を確認し、月末仕掛品原価の計算により、完成品原価を導くことを再確認させる。</li> </ul>		



教材の投影方法



板書とICT



使用したワークシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

前時に学習した「平均法」と本時で学習した「先入先出法」の計算方法をイメージすることができたという生徒は多く、単元目標は概ね達成できた。この単元は、今後の学習の中で何度も取り上げなければならない。そのため、2つの方法を常に比較し、生徒の学習状況を観察しながら効果的な場面を見つけ出し、いつでも取り出せる教材を作り、より生徒の理解が進むように改善することを考えている。また、電子黒板が整備され、タブレットを効果的に利用しながら授業を進めることができる環境も整っている。

パワーポイントやエクセルのファイルなどを利用すると、以前よりも学習内容が見やすく、生徒にとってはよい効果が期待できる。そのため、生徒の記憶に残る復習しやすいワークシートを作成し、生徒の状況に合わせて改善できる教材作りに努めていきたい。